

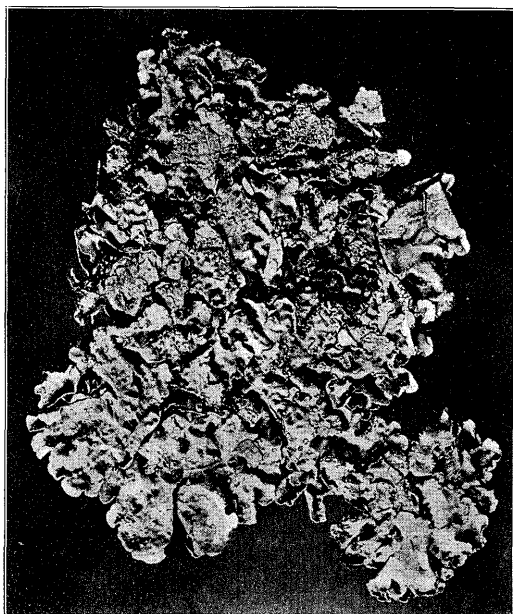
多クハアルマイト思フ

序デニ述ベルガ小野氏ガ右『植學譯笈』ヲ編シタ當時 Ovary ヲ誤テ胚珠トシタ、其レハ當時小野氏ガ胚珠ト云フ者ハ元來如何ナル部分ノ名デアアルカヲ能ク究メ得ナカッタニ坐スルモノデアッタ、然シソレガ其儘世間ニ流布シテ今日一般ニハ Ovary ガ胚珠デアルトシテ誰シモ之レヲ怪ム者ガナク皆得タトシテサウ用キテ居ルガ實ハ此胚珠ノ語ハ元ト支那ノ咸豐七年(我安政四年)ニ同國デ出版シタ漢文ノ『植物學』ト題スル書カラ出タモノデ同書デハ其レガ Ovary ノ心體ナル Nucellus (今日謂フ珠心)ノ名デアッタ決シテ Ovary 其モノ、名デハナクソレシテ Ovary ハ卵ト名ケラレテ居タノデアアル、私ハ嘗テ本誌ノ第一卷第一號デ「胚珠是カ卵子非カ」ト題シテソレヲ詳説シテ置イタカラ就テ參照セラレタイ、世人ハ一般ニ上ノいささつヲ知ラズニ小野氏ノ誤認ヲ襲イデ Ovary ニ胚珠ノ字ヲ充當使用シ居ルノハ之レガ委曲ヲ知ッテ居ル人カラ見ルト頗ル情ケナク感ズル、私ハ假令ヒ一時ノ不便ハアツテモ是非トモ是レハ植物學者ガ一致協力シ翻然トシテ訂正スベキモノダト思フ今日ノ植物學者モソレ位ナ敢爲斷行ノ氣象ガアツテ欲シイ、醫學藥學ノ方面デ今日廣ク用キラレツ、アル下山順一郎博士著、柴田桂太博士增訂ノ『藥用植物學』デハ Ovary ガ卵子トナッテ居ルノハヒドク嬉シイ此名ハドウカ何時マデモ貫イテ用キタイ、ソレハサウスルノガ正當デアアルカラデアアル

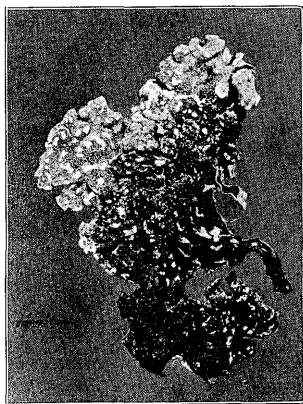
○蕾軒獨語 (其二十)

蕾軒 朝比奈泰彦

○はひろかぶとこけ(新稱) はひろかぶとこけト Lobaria serotriculata DC. ニ命ジタル和名デアアル、コノ地衣ハ歐洲、北米、亞細亞ニハ普通ナ大形地衣デアアルガ今日迄吾邦ニ産スルコトハ何處ニモ記載ガナイノデアアル然ルニ昨年(昭和二年)十月二十五日信州八ヶ嶽ニ於ケル岡田喜一郎君ノ採集品中ニ此地衣ヲ見出スコ

はひいろかぶとごけ (新種) (*Lobaria scrobiculata* DC.)

其表面 ×2/3 (蕾軒撮影)

はひいろかぶとごけ
(*Lobaria scrobiculata* DC.)

其裏面 (蕾軒撮影)

ヲ散布スルコトガ顯著デアル、裏面ハ暗褐色ノ綿毛ヲ密生シ處々ニ白色ヲ呈スル裸出部アリテかぶとごけノ裏面ニ酷似シテ居ル、綠顆體ハ念珠藻デアル、苛性加里溶液ノ反應ハ表面モ髓部モ共ニ消極的デアルガ往々髓部ハ淡黄褐色ヲ呈スルコトガアル漂白粉溶液ニヨル反應ハナイ

○松かさニ生エルまつかさつゑたけ

松かさニ生エルまつかさつゑたけ

理學博士

川村 清 一